住民基本台帳人口移動報告
2015年結果

結果の概要

2016年1月
総務省統計局
目次

結果の概要

I 移動者数
II 都道府県別転入・転出の状況
III 3大都市圏（東京圏、名古屋圏及び大阪圏）の転入・転出の状況
IV 各都市圏の転入・転出の状況
   1 東京圏、東京都及び東京都特別区部の転入・転出の状況
   2 名古屋圏、愛知県及び名古屋市の転入・転出の状況
   3 大阪圏、大阪府及び大阪市の転入・転出の状況
V 市町村の転入・転出の状況
VI 岩手県、宮城県及び福島県の転入・転出の状況
VII 移動者（外国人含む）の移動状況

統計表

第1表 男女別移動者数、都道府県内移動者数及び都道府県間移動者数の推移
   －全国（1954年～2015年）
参考表

参考表1 岩手県の転入者数、転出者数
   及び転入・転出超過数（2014年、2015年）
参考表2 宮城県の転入者数、転出者数
   及び転入・転出超過数（2014年、2015年）
参考表3 福島県の転入者数、転出者数
   及び転入・転出超過数（2014年、2015年）
住民基本台帳人口移動報告について

本報告における移動者数は、住民基本台帳法の規定により市町村に届出等のあった転入者に係る情報を集計したものです。

したがって、東日本大震災の影響を受けて被災地から避難した人に係る移動については、避難先の市町村に転入の届出があった人についてのみ、移動者として計上されています。
I 移動者数

◆都道府県間移動者数は2011年以来4年ぶりの増加。男性は1995年以来20年ぶり、女性は2011年以来4年ぶりの増加

2015年の1年間における日本人的市区町村間の移動者数（市区町村間で住所を移し、転入の届出を行った者の数）は504万1483人で、前年に比べ13万3474人（2.7％）の増加と、2003年以来12年ぶりの増加となっている。男女別にみると、男性は2003年以来12年ぶりの増加、女性は2013年以来2年ぶりの増加となっている。

移動者数を都道府県間移動者数と都道府県内移動者数に分けたとき、都道府県間移動者数は233万4738人で、前年に比べ7万5050人（3.3％）の増加となっている。都道府県間移動者数の推移をみると、1991年から1994年まで減少が続き、阪神・淡路大震災が発生した1995年は一時的に増加したものの、1996年以降15年連結の減少となった。東日本大震災が発生した2011年は16年ぶりに増加に転じ、2012年以降3年連結の減少となっていったが、2015年は2011年以来4年ぶりの増加となっている。年齢5歳階級別にみると、前年に比べ都道府県間移動者数が最も増加しているのは、20〜24歳で2万8399人（6.7％）となっており、次いで25〜29歳が1万267人（2.5％）などとなっている。一方、最も減少しているのは5〜9歳で1312人（1.8％）となっている。男女別にみると、男性は1995年以来20年ぶりの増加、女性は2011年以来4年ぶりの増加となっている。

都道府県内移動者数は270万6745人で、前年に比べ5万8424人（2.2％）の増加と、2013年以来2年ぶりの増加となっている。男女別にみると、男女共に2013年以来2年ぶりの増加となっている。

なお、都道府県間移動者、都道府県内移動者共に前年に比べ増加となったのは、1995年以来20年ぶりとなっている。

（表1、表2、図1、図2、統計第1表）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>市区町村間移動者数</th>
<th>都道府県間移動者数</th>
<th>都道府県内移動者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>対前年増減実数率（％）</td>
<td>対前年増減実数率（％）</td>
<td>対前年増減実数率（％）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5,041,483</td>
<td>4,908,009</td>
<td>133,474</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2,690,177</td>
<td>2,611,995</td>
<td>78,182</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2,351,306</td>
<td>2,296,014</td>
<td>55,292</td>
</tr>
</tbody>
</table>
表 2　年齢5歳階級別都道府県間移動者数（2014年，2015年）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>総数</td>
<td>2,334,738</td>
<td>2,259,688</td>
<td>75,050</td>
<td>3.3</td>
<td>107,232</td>
<td>100,525</td>
<td>6,707</td>
<td>6.7</td>
</tr>
<tr>
<td>0～4歳</td>
<td>144,150</td>
<td>143,620</td>
<td>530</td>
<td>0.4</td>
<td>50～54</td>
<td>76,623</td>
<td>70,389</td>
<td>6,234</td>
</tr>
<tr>
<td>5～9歳</td>
<td>70,788</td>
<td>72,100</td>
<td>-1,312</td>
<td>-1.8</td>
<td>55～59</td>
<td>56,106</td>
<td>52,933</td>
<td>3,173</td>
</tr>
<tr>
<td>10～14歳</td>
<td>37,436</td>
<td>38,440</td>
<td>-1,004</td>
<td>-2.6</td>
<td>60～64</td>
<td>45,361</td>
<td>45,511</td>
<td>-150</td>
</tr>
<tr>
<td>15～19歳</td>
<td>132,306</td>
<td>128,163</td>
<td>4,143</td>
<td>3.2</td>
<td>65～69</td>
<td>36,038</td>
<td>32,351</td>
<td>3,682</td>
</tr>
<tr>
<td>20～24歳</td>
<td>451,265</td>
<td>422,866</td>
<td>28,399</td>
<td>6.7</td>
<td>70～74</td>
<td>21,395</td>
<td>20,788</td>
<td>607</td>
</tr>
<tr>
<td>25～29歳</td>
<td>419,988</td>
<td>408,831</td>
<td>10,267</td>
<td>2.5</td>
<td>75～79</td>
<td>16,747</td>
<td>16,272</td>
<td>475</td>
</tr>
<tr>
<td>30～34歳</td>
<td>310,304</td>
<td>302,542</td>
<td>7,762</td>
<td>2.6</td>
<td>80～84</td>
<td>16,454</td>
<td>16,161</td>
<td>293</td>
</tr>
<tr>
<td>35～39歳</td>
<td>213,696</td>
<td>214,299</td>
<td>-603</td>
<td>-0.3</td>
<td>85～89</td>
<td>13,159</td>
<td>12,563</td>
<td>596</td>
</tr>
<tr>
<td>40～44歳</td>
<td>159,144</td>
<td>154,599</td>
<td>4,545</td>
<td>2.9</td>
<td>90歳以上</td>
<td>7,431</td>
<td>6,716</td>
<td>715</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）総数には年齢不明を含む。

図 2　年齢5歳階級別都道府県間移動者数（2014年，2015年）

（参考）年齢5歳階級別都道府県間移動者数（2010年，2015年）
Ⅱ 都道府県別転入・転出の状況

| ◆転入者数が最も増加しているのは東京都，2013年以降２年ぶりの増加 |
| ◆転入者数が最も減少しているのは宮城県，2013年以降３年連続の減少 |

2015年の転入者数を都道府県別にみると，東京都への転入者数が42万6084人と最も多く，次いで神奈川県が21万995人となり，他に，埼玉県，大阪府，千葉県及び愛知県の４府県が10万人台となっている。これら6都府県への転入者数の合計は121万3573人となり，転入者総数の52.0％を占めている。また，6都府県全てにおいて，前年に比べ転入者数は増加となっている。

前年に比べ転入者数が最も増加しているのは東京都で，2万1348人（5.3％）の増加となっており，次いで大阪府，神奈川県などがとなっています。前年に比べ東京都は2013年以降２年ぶり，大阪府は2011年以降４年ぶり，神奈川県は2007年以降８年ぶりの増加となっている。一方，前年に比べ転入者数が最も減少しているのは宮城県で，636人（1.3％）の減少と，2013年以降３年連続の減少となっており，次いで山口県，和歌山県などとなっている。

（表３）

| ◆転出者数が最も増加しているのは東京都，2011年以降４年ぶりの増加 |
| ◆転出者数が減少しているのは大分県のみ，2014年以降２年連続の減少 |

2015年の転出者数を都道府県別にみると，東京都からの転出者数が34万4388人と最も多く，次いで神奈川県（19万7467人），大阪府，埼玉県，千葉県及び愛知県の５府県が10万人台となっている。これら6都府県からの転出者数の合計は108万3598人となり，転出者総数の46.4％を占めている。また，6都府県全てにおいて，前年に比べ転出者数は増加となっている。

前年に比べ転出者数が最も増加しているのは東京都で，1万2932人（3.9％）の増加となっており，次いで神奈川県，埼玉県などとなっている。前年に比べ東京都は2011年以降４年ぶり，神奈川県は2009年以降６年ぶり，埼玉県は2012年以降３年ぶりの増加となっている。一方，前年に比べ転出者数が減少しているのは大分県のみで，15人（0.1％）の減少と，2014年以降２年連続の減少となっている。

（表３）
<table>
<thead>
<tr>
<th>都 道 府 県</th>
<th>転 入 者 数</th>
<th>前 年 増 減数</th>
<th>転 出 者 数</th>
<th>前 年 増 減数</th>
<th>転 入 超 渡 者数 (一は転出超過)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全 国</td>
<td>2,334,738</td>
<td>2,259,688</td>
<td>75,050</td>
<td>3.3</td>
<td>2,334,738</td>
</tr>
<tr>
<td>北 海 道</td>
<td>47,584</td>
<td>46,554</td>
<td>1,030</td>
<td>2.2</td>
<td>56,446</td>
</tr>
<tr>
<td>青 森 県</td>
<td>17,724</td>
<td>17,792</td>
<td>-68</td>
<td>-0.4</td>
<td>24,284</td>
</tr>
<tr>
<td>岩 手 県</td>
<td>17,636</td>
<td>17,845</td>
<td>-209</td>
<td>-1.2</td>
<td>21,758</td>
</tr>
<tr>
<td>宮 城 県</td>
<td>48,315</td>
<td>48,951</td>
<td>-636</td>
<td>-1.3</td>
<td>48,391</td>
</tr>
<tr>
<td>秋 田 県</td>
<td>11,710</td>
<td>11,626</td>
<td>84</td>
<td>0.7</td>
<td>16,202</td>
</tr>
<tr>
<td>山 形 県</td>
<td>13,199</td>
<td>13,316</td>
<td>-117</td>
<td>-0.9</td>
<td>17,342</td>
</tr>
<tr>
<td>福 島 県</td>
<td>28,209</td>
<td>27,056</td>
<td>1,153</td>
<td>4.3</td>
<td>30,604</td>
</tr>
<tr>
<td>茨 城 県</td>
<td>45,430</td>
<td>44,018</td>
<td>1,412</td>
<td>3.2</td>
<td>50,256</td>
</tr>
<tr>
<td>栃 木 県</td>
<td>30,716</td>
<td>30,542</td>
<td>176</td>
<td>0.6</td>
<td>33,642</td>
</tr>
<tr>
<td>群 馬 県</td>
<td>27,117</td>
<td>26,519</td>
<td>598</td>
<td>2.3</td>
<td>29,266</td>
</tr>
<tr>
<td>埼 玉 県</td>
<td>162,275</td>
<td>157,553</td>
<td>4,722</td>
<td>3.0</td>
<td>148,747</td>
</tr>
<tr>
<td>千 葉 県</td>
<td>143,390</td>
<td>137,199</td>
<td>6,191</td>
<td>4.5</td>
<td>132,785</td>
</tr>
<tr>
<td>東 京 県</td>
<td>426,084</td>
<td>404,736</td>
<td>21,348</td>
<td>5.3</td>
<td>344,388</td>
</tr>
<tr>
<td>神 奈 川 県</td>
<td>210,995</td>
<td>203,866</td>
<td>7,129</td>
<td>3.5</td>
<td>197,467</td>
</tr>
<tr>
<td>新 潟 県</td>
<td>21,852</td>
<td>21,853</td>
<td>-1</td>
<td>-0.0</td>
<td>28,587</td>
</tr>
<tr>
<td>富 山 県</td>
<td>12,549</td>
<td>11,891</td>
<td>658</td>
<td>5.5</td>
<td>13,594</td>
</tr>
<tr>
<td>石 川 県</td>
<td>17,933</td>
<td>16,994</td>
<td>939</td>
<td>5.5</td>
<td>18,220</td>
</tr>
<tr>
<td>福 知 県</td>
<td>8,528</td>
<td>8,048</td>
<td>480</td>
<td>6.0</td>
<td>10,682</td>
</tr>
<tr>
<td>山 形 県</td>
<td>12,552</td>
<td>12,029</td>
<td>523</td>
<td>4.6</td>
<td>15,135</td>
</tr>
<tr>
<td>長 野 県</td>
<td>26,745</td>
<td>25,794</td>
<td>951</td>
<td>3.7</td>
<td>29,679</td>
</tr>
<tr>
<td>岐 阜 県</td>
<td>25,858</td>
<td>25,250</td>
<td>600</td>
<td>2.4</td>
<td>31,052</td>
</tr>
<tr>
<td>静 岡 県</td>
<td>50,639</td>
<td>48,814</td>
<td>1,825</td>
<td>3.7</td>
<td>56,845</td>
</tr>
<tr>
<td>愛 姫 県</td>
<td>114,416</td>
<td>109,405</td>
<td>5,011</td>
<td>4.6</td>
<td>106,094</td>
</tr>
<tr>
<td>三 洲 県</td>
<td>26,736</td>
<td>26,337</td>
<td>399</td>
<td>1.5</td>
<td>30,954</td>
</tr>
<tr>
<td>滋 賀 県</td>
<td>24,916</td>
<td>24,554</td>
<td>362</td>
<td>1.5</td>
<td>26,903</td>
</tr>
<tr>
<td>京都府</td>
<td>55,488</td>
<td>53,417</td>
<td>2,071</td>
<td>3.9</td>
<td>55,767</td>
</tr>
<tr>
<td>大 阪 府</td>
<td>156,413</td>
<td>149,142</td>
<td>7,271</td>
<td>4.9</td>
<td>154,117</td>
</tr>
<tr>
<td>兵 庫 県</td>
<td>87,946</td>
<td>86,390</td>
<td>1,556</td>
<td>1.8</td>
<td>95,355</td>
</tr>
<tr>
<td>奈 良 県</td>
<td>23,796</td>
<td>23,662</td>
<td>134</td>
<td>0.6</td>
<td>27,758</td>
</tr>
<tr>
<td>和 歌 山 県</td>
<td>11,178</td>
<td>11,420</td>
<td>-242</td>
<td>-2.1</td>
<td>15,158</td>
</tr>
<tr>
<td>鳥 取 県</td>
<td>9,028</td>
<td>8,965</td>
<td>63</td>
<td>0.7</td>
<td>10,531</td>
</tr>
<tr>
<td>岡 本 県</td>
<td>10,548</td>
<td>10,061</td>
<td>487</td>
<td>4.8</td>
<td>11,914</td>
</tr>
<tr>
<td>岡 山 県</td>
<td>29,352</td>
<td>28,900</td>
<td>452</td>
<td>1.6</td>
<td>30,602</td>
</tr>
<tr>
<td>広 島 県</td>
<td>46,864</td>
<td>45,071</td>
<td>1,793</td>
<td>4.0</td>
<td>49,720</td>
</tr>
<tr>
<td>山 口 県</td>
<td>21,809</td>
<td>22,163</td>
<td>-294</td>
<td>-1.3</td>
<td>26,499</td>
</tr>
<tr>
<td>徳 島 県</td>
<td>9,478</td>
<td>9,438</td>
<td>40</td>
<td>0.4</td>
<td>11,712</td>
</tr>
<tr>
<td>香 川 県</td>
<td>17,999</td>
<td>17,263</td>
<td>736</td>
<td>4.3</td>
<td>18,491</td>
</tr>
<tr>
<td>愛媛県</td>
<td>17,726</td>
<td>17,385</td>
<td>341</td>
<td>2.0</td>
<td>21,595</td>
</tr>
<tr>
<td>高 水 県</td>
<td>9,199</td>
<td>9,018</td>
<td>181</td>
<td>2.0</td>
<td>11,477</td>
</tr>
<tr>
<td>福 岡 県</td>
<td>99,936</td>
<td>96,588</td>
<td>3,348</td>
<td>3.5</td>
<td>96,333</td>
</tr>
<tr>
<td>佐 賀 県</td>
<td>15,334</td>
<td>14,979</td>
<td>355</td>
<td>2.4</td>
<td>18,005</td>
</tr>
<tr>
<td>長 崎 県</td>
<td>22,919</td>
<td>22,447</td>
<td>472</td>
<td>2.1</td>
<td>28,767</td>
</tr>
<tr>
<td>熊 本 県</td>
<td>27,916</td>
<td>27,671</td>
<td>245</td>
<td>0.9</td>
<td>31,849</td>
</tr>
<tr>
<td>大 分 県</td>
<td>18,391</td>
<td>18,170</td>
<td>221</td>
<td>1.2</td>
<td>20,803</td>
</tr>
<tr>
<td>宮 崎 県</td>
<td>18,326</td>
<td>18,421</td>
<td>-94</td>
<td>-0.5</td>
<td>21,788</td>
</tr>
<tr>
<td>鹿 厳 島 県</td>
<td>26,451</td>
<td>26,215</td>
<td>236</td>
<td>0.9</td>
<td>31,749</td>
</tr>
<tr>
<td>沖 縄 県</td>
<td>25,441</td>
<td>24,356</td>
<td>1,085</td>
<td>4.5</td>
<td>25,425</td>
</tr>
</tbody>
</table>
東京都の転入超過数は2012年以降4年連続の増加
大阪府、沖縄県共に前年の転出超過から転じ、2013年以降2年ぶりの転入超過

2015年の転入超過数を都道府県別にみると、東京都が8万1696人と最も多く、次いで埼玉県（1万3528人）、神奈川県（1万3528人）など8都府県で転入超過となり、前年に比べ1府増加している。前年も転入超過であった6都県のうち、東京都の転入超過数は2012年以降4年連続の増加となっているが、埼玉県は前年に比べ1381人の減少と、2012年以降3年ぶりの減少となっている。

前年の転出超過から転じて転入超過となったのは、大阪府及び沖縄県となっており、共に2013年以降2年ぶりの転入超過となっている。

転出超過数をみると、北海道が8862人と最も多く、次いで兵庫県（7409人）、新潟県（6735人）、青森県（6560人）、靜岡県（6206人）など39府県で転出超過となっている。

前年の転入超過から転じて転出超過となったのは、宮城県のみとなっており、宮城県は2011年以来4年ぶりの転出超過となっている。

（表3，図3）

図3 都道府県別転入・転出超過数（2014年，2015年）
III 3大都市圏（東京圏、名古屋圏及び大阪圏）の転入・転出の状況

◆ 3大都市圏全体の転入超過数は10万8913人

2015年の3大都市圏（東京圏、名古屋圏及び大阪圏）の転入・転出超過数をみると、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県）は11万9357人の転入超過、名古屋圏（愛知県、岐阜県及び三重県）は1090人、大阪圏（大阪府、兵庫県、京都府及び奈良県）は9354人の転出超過となり、名古屋圏及び大阪圏は2013年以降3年連続の転出超過となっている。3大都市圏全体では10万8913人の転入超過となり、前年に比べ1万2030人の増加となっている。

東京圏と名古屋圏及び大阪圏との間の転入・転出の状況をみると、名古屋圏及び大阪圏から東京圏への転入者数は12万8974人となり、前年に比べ5139人の増加と、2012年以降4年連続の増加となっている。また、東京圏から名古屋圏及び大阪圏への転出者数は9万7019人となり、前年に比べ4516人の増加と、2011年以降4年ぶりの増加となっている。 （図4、図5）

図4 3大都市圏の転入・転出超過数の推移（1954年〜2015年）

図5 東京圏と名古屋圏及び大阪圏との間の転入・転出の状況（2010年〜2015年）
IV 各都市圏の転入・転出の状況

1 東京圏、東京都及び東京都特別区部の転入・転出の状況

東京都の転入超過数は1万9357人、前年に比べ9949人増加。構成都市圏全てが転入超過

2015年の転入・転出超過数をみると、東京都は1万9357人、東京都は8万1696人、東京都特別区部は6万8917人の転入超過となっている。東京都の転入超過は20年連続となり、前年に比べ転入超過数は9949人の増加となっている。東京都の転入超過数が増加するのは2012年以降4年連続となっている。東京都を構成する有市には東京都、神奈川県及び埼玉県は1万3528人、千葉県は1万605人の転入超過となり、構成都市圏全てが転入超過となっている。このうち、前年に比べ転入超過数が減少となっているのは、埼玉県のみとなっている。

東京都及び東京都特別区部は1997年以降共に19年連続の転入超過となっており、東京都は2015年以降4年連続、東京都特別区部は2010年以降5年連続で、転入超過数は増加となっている。

（表4、図6）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>東京圏</td>
<td>521,623</td>
<td>529,287</td>
<td>540,015</td>
<td>528,009</td>
<td>505,873</td>
<td>470,077</td>
<td>461,287</td>
<td>456,744</td>
<td>466,844</td>
<td>468,576</td>
<td>487,251</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>114,688</td>
<td>132,033</td>
<td>155,150</td>
<td>151,696</td>
<td>117,461</td>
<td>92,829</td>
<td>62,809</td>
<td>67,209</td>
<td>96,524</td>
<td>109,408</td>
<td>119,357</td>
</tr>
<tr>
<td>東京都</td>
<td>438,087</td>
<td>437,535</td>
<td>443,349</td>
<td>425,661</td>
<td>413,370</td>
<td>396,318</td>
<td>394,116</td>
<td>400,274</td>
<td>407,711</td>
<td>404,736</td>
<td>426,084</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>351,525</td>
<td>347,456</td>
<td>348,849</td>
<td>342,661</td>
<td>347,587</td>
<td>349,634</td>
<td>343,773</td>
<td>337,539</td>
<td>331,456</td>
<td>344,388</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>86,562</td>
<td>90,079</td>
<td>94,500</td>
<td>83,000</td>
<td>56,220</td>
<td>48,331</td>
<td>44,482</td>
<td>56,497</td>
<td>70,172</td>
<td>73,280</td>
<td>81,696</td>
</tr>
<tr>
<td>東京都特別区部</td>
<td>364,152</td>
<td>366,280</td>
<td>369,429</td>
<td>355,994</td>
<td>345,888</td>
<td>334,899</td>
<td>336,138</td>
<td>344,262</td>
<td>351,703</td>
<td>349,564</td>
<td>368,423</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>294,194</td>
<td>289,494</td>
<td>292,162</td>
<td>288,152</td>
<td>308,497</td>
<td>301,801</td>
<td>300,703</td>
<td>294,607</td>
<td>290,422</td>
<td>285,588</td>
<td>299,506</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>69,958</td>
<td>76,786</td>
<td>77,267</td>
<td>67,842</td>
<td>37,391</td>
<td>33,098</td>
<td>35,435</td>
<td>49,655</td>
<td>61,281</td>
<td>63,976</td>
<td>68,917</td>
</tr>
<tr>
<td>神奈川県</td>
<td>237,827</td>
<td>236,863</td>
<td>242,080</td>
<td>233,616</td>
<td>228,793</td>
<td>215,904</td>
<td>210,631</td>
<td>207,908</td>
<td>207,670</td>
<td>203,866</td>
<td>210,995</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>215,578</td>
<td>215,015</td>
<td>209,606</td>
<td>203,970</td>
<td>207,327</td>
<td>201,017</td>
<td>200,512</td>
<td>199,306</td>
<td>195,314</td>
<td>191,011</td>
<td>197,467</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>22,240</td>
<td>21,848</td>
<td>32,474</td>
<td>29,646</td>
<td>21,466</td>
<td>14,887</td>
<td>10,119</td>
<td>8,602</td>
<td>12,356</td>
<td>12,855</td>
<td>13,528</td>
</tr>
<tr>
<td>埼玉県</td>
<td>165,916</td>
<td>169,949</td>
<td>169,565</td>
<td>167,624</td>
<td>168,888</td>
<td>162,483</td>
<td>159,200</td>
<td>157,961</td>
<td>157,910</td>
<td>157,553</td>
<td>162,275</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>166,156</td>
<td>162,241</td>
<td>161,021</td>
<td>152,752</td>
<td>150,805</td>
<td>147,059</td>
<td>147,057</td>
<td>147,663</td>
<td>146,356</td>
<td>142,644</td>
<td>148,747</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>-240</td>
<td>7,708</td>
<td>8,544</td>
<td>14,872</td>
<td>18,083</td>
<td>15,424</td>
<td>12,143</td>
<td>10,298</td>
<td>11,554</td>
<td>14,909</td>
<td>13,528</td>
</tr>
<tr>
<td>千葉県</td>
<td>162,475</td>
<td>162,526</td>
<td>167,172</td>
<td>166,724</td>
<td>162,199</td>
<td>151,402</td>
<td>138,402</td>
<td>132,651</td>
<td>136,645</td>
<td>137,199</td>
<td>143,390</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>156,358</td>
<td>150,128</td>
<td>147,540</td>
<td>142,546</td>
<td>140,507</td>
<td>137,215</td>
<td>142,337</td>
<td>140,839</td>
<td>134,203</td>
<td>128,835</td>
<td>132,785</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>6,117</td>
<td>12,398</td>
<td>19,632</td>
<td>24,178</td>
<td>21,692</td>
<td>14,187</td>
<td>-3,925</td>
<td>-8,188</td>
<td>2,442</td>
<td>8,364</td>
<td>10,605</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注１）「－」は転出超過を表す。
注２）東京都：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
東京圏と東京圏以外の道府県との間の転入・転出過数をみると、東京圏以外の全ての道府県との間で東京圏が転入過数となっている。前年に比べ転入過数が増加しているのは、宮城県（1215人）、栃木県（1115人）、新潟県（1115人）など37府県となっている。一方、転入過数が減少しているのは、愛知県（619人）、長野県（188人）、北海道（81人）など6道県となっている。

図7 東京圏と他の道府県との間の転入・転出過数（2014年、2015年）

（参考） 東京圏と他の道府県との間の転入・転出過数（2010年、2015年）
2 名古屋圏、愛知県及び名古屋市の転入・転出の状況

◆名古屋圏は2013年以降3年連続の転出超過

2015年の転入・転出超過数をみると、名古屋圏は1090人の転出超過、愛知県は8322人、名古屋市は7276人の転入超過となっている。

名古屋圏は2013年以降3年連続の転出超過となっている。名古屋圏を構成する各県についてみると、愛知県は8322人の転入超過となり、前年に比べ転入超過数は2132人の増加となっている。一方、岐阜県は5194人、三重県は4218人の転出超過となり、前年に比べ転出超過数は、岐阜県で1040人、三重県で1379人の増加となっている。

愛知県は1997年以降、名古屋市は2002年以降、共に2009年まで転入超過が続いているが、2010年に転出超過に転じ、2011年以降は3年連続の転入超過となっている。（表5，図8）

表5 名古屋圏、名古屋圏の構成県及び名古屋市の転入者数、転出者数及び転入・転出超過数の推移（2005年～2015年）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>名古屋圏</td>
<td>転入者数</td>
<td>144,132</td>
<td>148,315</td>
<td>148,443</td>
<td>144,055</td>
<td>131,912</td>
<td>117,011</td>
<td>121,100</td>
<td>121,606</td>
<td>119,807</td>
<td>118,208</td>
<td>122,609</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>129,120</td>
<td>130,441</td>
<td>130,889</td>
<td>130,530</td>
<td>136,449</td>
<td>123,253</td>
<td>118,040</td>
<td>120,039</td>
<td>119,954</td>
<td>119,011</td>
<td>123,699</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>転入超過数</td>
<td>15,012</td>
<td>17,874</td>
<td>17,554</td>
<td>13,525</td>
<td>-4,537</td>
<td>-6,242</td>
<td>3,060</td>
<td>1,567</td>
<td>-147</td>
<td>-803</td>
<td>-1,090</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>愛知県</td>
<td>転入者数</td>
<td>129,478</td>
<td>132,374</td>
<td>132,349</td>
<td>130,373</td>
<td>120,530</td>
<td>105,769</td>
<td>108,601</td>
<td>110,624</td>
<td>111,461</td>
<td>109,405</td>
<td>114,416</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>110,220</td>
<td>111,375</td>
<td>111,829</td>
<td>111,982</td>
<td>116,455</td>
<td>107,031</td>
<td>102,222</td>
<td>103,032</td>
<td>103,570</td>
<td>103,215</td>
<td>106,094</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>転入超過数</td>
<td>19,258</td>
<td>20,999</td>
<td>20,520</td>
<td>18,391</td>
<td>4,075</td>
<td>-1,262</td>
<td>6,379</td>
<td>7,592</td>
<td>7,891</td>
<td>6,190</td>
<td>8,322</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>名古屋市</td>
<td>転入者数</td>
<td>83,696</td>
<td>84,752</td>
<td>84,801</td>
<td>84,099</td>
<td>83,179</td>
<td>76,083</td>
<td>75,526</td>
<td>77,413</td>
<td>78,940</td>
<td>77,917</td>
<td>82,075</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>76,930</td>
<td>78,855</td>
<td>78,623</td>
<td>78,959</td>
<td>79,110</td>
<td>76,339</td>
<td>73,847</td>
<td>73,415</td>
<td>73,711</td>
<td>72,637</td>
<td>74,799</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>転入超過数</td>
<td>6,766</td>
<td>5,897</td>
<td>6,178</td>
<td>6,140</td>
<td>4,069</td>
<td>-256</td>
<td>1,679</td>
<td>3,998</td>
<td>5,229</td>
<td>5,280</td>
<td>7,276</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岐阜県</td>
<td>転入者数</td>
<td>30,946</td>
<td>30,783</td>
<td>30,597</td>
<td>29,231</td>
<td>27,962</td>
<td>26,793</td>
<td>27,016</td>
<td>26,630</td>
<td>25,930</td>
<td>25,258</td>
<td>25,858</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>34,606</td>
<td>34,518</td>
<td>34,325</td>
<td>33,894</td>
<td>33,150</td>
<td>30,181</td>
<td>29,367</td>
<td>30,546</td>
<td>30,742</td>
<td>29,412</td>
<td>31,052</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>三重県</td>
<td>転入者数</td>
<td>31,455</td>
<td>33,040</td>
<td>33,478</td>
<td>32,503</td>
<td>30,334</td>
<td>27,619</td>
<td>28,019</td>
<td>27,750</td>
<td>26,747</td>
<td>26,337</td>
<td>26,736</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>32,041</td>
<td>32,430</td>
<td>32,716</td>
<td>32,706</td>
<td>33,758</td>
<td>29,211</td>
<td>28,987</td>
<td>29,859</td>
<td>29,973</td>
<td>29,176</td>
<td>30,954</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

注1）「-」は転出超過を表す。
注2）名古屋圏：愛知県、岐阜県、三重県
名古屋圏が転入超過となっているのは35都県で前年に比べ1府減少
名古屋圏が前年の転出超過から転じて転入超過となったのは、栃木県及び山梨県

名古屋圏と名古屋圏以外の都道府県との間の転入・転出超過数をみると、名古屋圏が転入超過となっているのは35都県となり、前年に比べ1府の減少となっている。35都県のうち、前年の転出超過から転じて転入超過となったのは、栃木県及び山梨県となっている。前年に比べ転入超過数が増加しているのは、北海道（529人）、兵庫県（327人）など19都県となり、前年に比べ5都県増加している。また、転入超過数が減少しているのは、静岡県（292人）、滋賀県（276人）など13県となり、前年に比べ7都県減少している。

一方、名古屋圏が転出超過となっているのは東京都など9都府県となり、前年の転入超過から転じて転出超過となったのは、大阪府、石川県及び群馬県となっている。前年に比べ転出超過数が増加しているのは、京都府（98人）及び東京都（88人）となっている。また、転出超過数が減少しているのは、千葉県（174人）など4県となっている。（図9）

図9  名古屋圏と他の都道府県との間の転入・転出超過数（2014年、2015年）
３　大阪圏、大阪府及び大阪市の転入・転出の状況

大阪圏は2013年以降3年連続の転出超過

2015年の転入・転出超過数をみると、大阪圏は9354人の転出超過、大阪府は2296人、大阪市は1万1662人の転入超過となっている。

大阪圏は2013年以降3年連続の転出超過となっている。大阪圏を構成する各府県についてみると、大阪府は2296人の転入超過となり、前年の転出超過（391人）から転じ、2013年以降2年ぶりの転入超過となっている。一方、兵庫県は7409人、京都府は279人、奈良県は3962人の転出超過となり、兵庫県及び京都府は2012年以降4年連続の転出超過となっている。また、奈良県の転出超過数は、2012年以降4年連続の増加となっている。

大阪府は1996年以降15年連続の転出超過となっていたが、2011年以降3年連続の転入超過となり、2015年は前年の転出超過から転じている。

大阪市は2001年以降15年連続で転入超過となっている。

（表6、図10）

表6　大阪圏、大阪圏の構成府県及び大阪市の転入者数、転出者数及び転入・転出超過数の推移
（2005年〜2015年）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大阪圏</td>
<td>223,243</td>
<td>221,821</td>
<td>219,421</td>
<td>215,444</td>
<td>213,243</td>
<td>200,663</td>
<td>210,729</td>
<td>206,448</td>
<td>201,565</td>
<td>195,302</td>
<td>204,046</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>238,265</td>
<td>235,548</td>
<td>235,067</td>
<td>226,587</td>
<td>221,798</td>
<td>211,113</td>
<td>206,520</td>
<td>205,471</td>
<td>208,156</td>
<td>207,024</td>
<td>213,400</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>-15,022</td>
<td>-13,727</td>
<td>-15,646</td>
<td>-11,143</td>
<td>-8,555</td>
<td>-10,450</td>
<td>4,209</td>
<td>977</td>
<td>-6,591</td>
<td>-11,722</td>
<td>-9,354</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪府</td>
<td>166,732</td>
<td>166,172</td>
<td>164,884</td>
<td>161,589</td>
<td>159,651</td>
<td>151,123</td>
<td>156,059</td>
<td>154,847</td>
<td>153,281</td>
<td>149,142</td>
<td>156,113</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>175,488</td>
<td>172,525</td>
<td>169,836</td>
<td>165,157</td>
<td>161,924</td>
<td>154,693</td>
<td>151,156</td>
<td>149,466</td>
<td>149,904</td>
<td>149,533</td>
<td>154,117</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>-8,756</td>
<td>-6,353</td>
<td>-4,952</td>
<td>-3,568</td>
<td>-2,273</td>
<td>-3,570</td>
<td>4,903</td>
<td>5,381</td>
<td>3,377</td>
<td>-391</td>
<td>2,296</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪市</td>
<td>96,032</td>
<td>97,160</td>
<td>97,768</td>
<td>96,903</td>
<td>96,982</td>
<td>93,127</td>
<td>94,572</td>
<td>93,777</td>
<td>94,834</td>
<td>93,938</td>
<td>101,218</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>90,941</td>
<td>91,492</td>
<td>91,141</td>
<td>89,839</td>
<td>89,909</td>
<td>87,307</td>
<td>85,795</td>
<td>86,035</td>
<td>86,105</td>
<td>86,776</td>
<td>89,556</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>5,091</td>
<td>5,668</td>
<td>6,627</td>
<td>7,064</td>
<td>7,073</td>
<td>5,820</td>
<td>8,777</td>
<td>7,742</td>
<td>8,729</td>
<td>7,162</td>
<td>11,662</td>
</tr>
<tr>
<td>兵庫県</td>
<td>104,133</td>
<td>102,407</td>
<td>101,403</td>
<td>98,104</td>
<td>97,234</td>
<td>90,632</td>
<td>93,085</td>
<td>90,850</td>
<td>88,382</td>
<td>86,390</td>
<td>87,946</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>103,286</td>
<td>102,309</td>
<td>101,840</td>
<td>98,218</td>
<td>97,031</td>
<td>93,275</td>
<td>91,851</td>
<td>92,145</td>
<td>93,596</td>
<td>93,482</td>
<td>95,355</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>847</td>
<td>98</td>
<td>-1,437</td>
<td>-114</td>
<td>203</td>
<td>-2,643</td>
<td>1,234</td>
<td>-1,295</td>
<td>-5,214</td>
<td>-7,092</td>
<td>-7,409</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>-2,221</td>
<td>-2,790</td>
<td>-4,337</td>
<td>-3,269</td>
<td>-3,601</td>
<td>-1,940</td>
<td>37</td>
<td>-418</td>
<td>-1,973</td>
<td>-1,174</td>
<td>-279</td>
</tr>
<tr>
<td>奈良県</td>
<td>28,171</td>
<td>27,920</td>
<td>27,263</td>
<td>26,269</td>
<td>26,387</td>
<td>25,690</td>
<td>25,330</td>
<td>24,671</td>
<td>24,501</td>
<td>23,662</td>
<td>23,796</td>
</tr>
<tr>
<td>転入者数</td>
<td>33,063</td>
<td>32,602</td>
<td>32,183</td>
<td>30,461</td>
<td>29,271</td>
<td>27,987</td>
<td>27,295</td>
<td>27,362</td>
<td>27,282</td>
<td>26,727</td>
<td>27,758</td>
</tr>
<tr>
<td>転出者数</td>
<td>-4,892</td>
<td>-4,682</td>
<td>-4,920</td>
<td>-4,192</td>
<td>-2,884</td>
<td>-2,297</td>
<td>-1,965</td>
<td>-2,691</td>
<td>-2,781</td>
<td>-3,065</td>
<td>-3,962</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注1）「一」は転出超過を表す。
注2）大阪圏：大阪府、兵庫県、京都府、奈良県
大阪圏が転入超過となっているのは34都県
大阪圏と東京都との間の転出超過数は、2012年以降4年連続の増加

大阪圏と大阪圏以外の都道府県との間の転入・転出超過数をみると、大阪圏が転入超過となっているのは34都県となり、前年に比べ1県の増加となっている。34都県のうち、前年の転出超過から転じて転入超過となったのは、滋賀県及び群馬県となっている。前年に比べ転入超過数が増加しているのは、福島県（661人）、愛知県（479人）など20県となり、前年に比べ10県増加している。また、転入超過数が減少しているのは、石川県（269人）など12県となり、前年に比べ8県減少している。

一方、大阪圏が転出超過となっているのは東京都など9都県となり、前年の転入超過から転じて転出超過となったのは、長野県のみとなっている。前年に比べ転出超過数が増加しているのは、東京都（1378人）など5都県となっており、東京都との間の転出超過数は2012年以降4年連続の増加となっている。また、転出超過数が減少しているのは、神奈川県（586人）、千葉県（386人）及び愛知県（233人）となっている。

図11  大阪圏と他の都道府県との間の転入・転出超過数（2014年、2015年）

（参考）大阪圏と他の都道府県との間の転入・転出超過数（2010年、2015年）
V 市町村の転入・転出の状況

◆全国の市町村のうち7割以上が転出超過

2015年12月31日現在の全国1718市町村[注1]についてみると、転入超過[注2]となっているのは前年と同数の407市町村で、全体の23.7％となっている。転入超過数は東京都特別区部が6万8917人と最も多く、次いで大阪府大阪市（1万1662人）、福岡県福岡市（8880人）などとなっている。また、転入超過数の多い上位20市町村のうち、千葉県が5市を占めている。
一方、転出超過となっているのは1311市町村で、全体の76.3％となっている。転出超過数は福岡県北九州市が3088人と最も多く、次いで神奈川県横須賀市（1785人）、長崎県長崎市（1574人）などとなっている。また、転出超過数の多い上位20市町村のうち、大阪府が5市を占めている。

（表7、表8）

注1）東京都特別区部は1市として扱う。また、2015年3月30日から住民基本台帳ネットワークシステムに接続した福島県矢祭町については、本報告における転出者数が2015年4月1日から12月31日までの結果であるため、含めない。
注2）転入超過数0の市町村については転入超過に含める。

◆秋田県は3年連続で生産年齢区分（15～64歳）において、全ての市町村が転出超過

全国の市町村を年齢3区分別にみると、1718市町村のうち転入超過となっているのは、0～14歳が949市町村（全体の55.2％）、15～64歳が336市町村（同19.6％）、65歳以上が743市町村（同43.2％）となっている。
転入超過の市町村の割合が最も高い都道府県をみると、0～14歳の区分では東京都（当該都道府県全体の77.5％）、15～64歳の区分では東京都（同62.5％）、65歳以上の区分では埼玉県（同76.2％）となっている。
一方、転出超過の市町村の割合が最も高い都道府県をみると、0～14歳の区分では長崎県及び大分県（同66.7％）、15～64歳の区分では秋田県（同100.0％）、65歳以上の区分では北海道（同81.6％）となっている。

（表8）
<table>
<thead>
<tr>
<th>都道府県</th>
<th>市町村数</th>
<th>15〜64歳</th>
<th>65歳以上</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>179</td>
<td>1,718</td>
<td>2,069</td>
</tr>
<tr>
<td>沖縄</td>
<td>77</td>
<td>3,478</td>
<td>3,307</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注1）東京都特別区部は1市として扱う。
注2）転入超過数の前年については転入超過に含める。
Ⅶ 岩手県、宮城県及び福島県の転入・転出の状況

◆ 3県の転出超過数合計は6593人、前年に比べ3619人の増加
◆ 宮城県は2011年以降4年ぶりの転出超過となり、3県全てで転出超過

2015年の岩手県、宮城県及び福島県の転出超過数の合計は、6593人となり、前年に比べ3619人の増加となっている。転出超過数を都道府県別にみると、岩手県及び福島県は引き続きの転出超過、宮城県は前年の転入超過から転じ、2011年以降4年ぶりの転出超過となり、3県全てで転出超過となっている。

（表9、図12）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>転入超過数（転入超過数合計）</th>
<th>転入者数</th>
<th>転出者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>男</td>
<td>1,603</td>
<td>1,903</td>
<td>1,563</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>1,700</td>
<td>2,060</td>
<td>1,855</td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>3,003</td>
<td>3,013</td>
<td>2,933</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>1,503</td>
<td>1,513</td>
<td>1,473</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>1,500</td>
<td>1,500</td>
<td>1,460</td>
</tr>
<tr>
<td>福島県</td>
<td>1,303</td>
<td>3,013</td>
<td>2,533</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>803</td>
<td>803</td>
<td>753</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>500</td>
<td>500</td>
<td>780</td>
</tr>
</tbody>
</table>

図12 岩手県、宮城県及び福島県の転入・転出超過数の推移（1954年〜2015年）
岩手県の転出超過数は4122人。前年に比べ922人の増加。2013年以降3年連続の増加

2015年の岩手県の転入・転出超過数をみると、4122人の転出超過となり、震災発生前の2010年とほぼ同水準となっている。また、転出超過数は前年に比べ922人の増加と、2013年以降3年連続の増加となっている。他の都道府県との間の転入・転出超過数をみると、静岡県、沖縄県など8県との間で前年の転入超過から転出超過に転じ、前年に比べ転出超過数は東京都、宮城県など14都道府県との間で増加となっている。

（表9、図13、参考表1）
宮城県は前年の転入超過から転じ、2011年以来4年ぶりの転出超過

2015年の宮城県の転入・転出超過数をみると、前年の転入超過（2437人）から転じて76人の転出超過となり、2011年以来4年ぶりの転出超過となっています。他の都道府県との間の転入・転出超過数をみると、東京都など19都府県との間で転出超過となり、このうち茨城県など7県が前年の転入超過から転出超過に転じている。また、前年も転出超過であった12都府県のうち、前年に比べ転出超過数は東京都など9都府県との間で増加となっている。（表9、図14、参考表2）

注）転入超過0の都道府県については転入超過に含める。

図14 宮城県と他の都道府県との間の転入・転出超過数（2014年、2015年）

（参考）宮城県と他の都道府県との間の転入・転出超過数（2010年、2015年）
福島県の転出超過数は2395人、前年に比べ184人増加。2011年以降4年ぶりの増加

2015年の福島県の転入・転出超過数をみると、2395人の転出超過となり、転出超過数は前年に比べ184人増加と、2011年以降4年ぶりの増加となっている。他の都道府県との間の転入・転出超過数をみると、前年に比べ転入超過数は、静岡県、愛知県など15都道府県との間で減少となっている。また、前年に比べ転出超過数は、東京都、神奈川県など7都道府県との間で増加となっている。
（表9、図15、参考表3）
 VII 移動者（外国人含む）の移動状況

◆都道府県間移動者数は前年に比べ増加

2015年の1年間における外国人を含む市区町村間の移動者数は538万4553人で、前年に比べ17万6954人（3.4%）の増加となっている。男女別にみると、男性は287万6343人で、10万5098人（3.8%）の増加、女性は250万8210人で、7万1856人（2.9%）の増加となっている。

都道府県間移動者数は250万2780人で、前年に比べ9万7557人（4.1%）の増加、都道府県内移動者数は288万1773人で、前年に比べ7万9397人（2.8%）の増加となっている。 （表10）

表 10 男女別移動者数（2014年，2015年）（人）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>市区町村間移動者数</th>
<th>都道府県間移動者数</th>
<th>都道府県内移動者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>総数</td>
<td>5,384,553</td>
<td>5,207,599</td>
<td>176,954</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>2,876,343</td>
<td>2,771,245</td>
<td>105,098</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>2,508,210</td>
<td>2,436,354</td>
<td>71,856</td>
</tr>
</tbody>
</table>

◆東京圏は転入超過、名古屋圏及び大阪圏は転出超過

3大都市圏の転入・転出超過数をみると、東京圏は12万7623人の転入超過となっている。3大都市圏の転入・転出超過数をみると、東京圏は12万7623人の転入超過となっており、前年に比べ1万1553人の増加となっている。男女別にみると、男性は4047人の増加、女性は7528人の増加となっている。

一方、名古屋圏は631人の転出超過、大阪圏は1万1054人の転出超過となっており、前年に比べ名古屋圏は5人の減少、大阪圏は2597人の減少となっている。 （表11）

表 11 3大都市圏別転入者数、転出者数及び転入・転出超過数（2014年，2015年）（人）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>転入者数</th>
<th>都道府県間移動者数</th>
<th>都道府県内移動者数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>2015年</td>
<td>2014年</td>
<td>対前年増減</td>
</tr>
<tr>
<td>男女</td>
<td>516,109</td>
<td>493,236</td>
<td>22,873</td>
</tr>
<tr>
<td>東京圏</td>
<td>284,080</td>
<td>272,209</td>
<td>11,871</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>232,029</td>
<td>221,027</td>
<td>11,002</td>
</tr>
<tr>
<td>名古屋圏</td>
<td>135,082</td>
<td>129,117</td>
<td>5,965</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>81,396</td>
<td>77,454</td>
<td>3,942</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>53,686</td>
<td>51,663</td>
<td>2,023</td>
</tr>
<tr>
<td>大阪圏</td>
<td>215,452</td>
<td>205,387</td>
<td>10,065</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>118,575</td>
<td>112,321</td>
<td>6,254</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>96,877</td>
<td>93,066</td>
<td>3,811</td>
</tr>
</tbody>
</table>